

力合わせ、学校支援

県内ALITら 美術展企画 収益をネパールへ

弘前

本県に派遣された外 慈善団体「エベレスト



美術展をPRするバーさん(右)とマワーズさん

国語の指導助手(A・L・T)や国際交流員らの主催のチャリティー美術展「ナマステ」が十日から二日間の日程で、弘前市上瓦ヶ町のスペース・デナガで開かれている。作品販売の収益は全額、ネパールの学校へ寄付し、教科書の購入や学校設備の充実などに充てられる。

同団体はネパールの「プラジュアル学校」を支援しようと、六年前から活動を始め、二〇〇七年には新校舎が完成した。

会場では、県内在住の外国人と日本人の絵

画や写真、ハワイのアート集団「グラウンド・アップ」の作品など約九十点を飾り、販売。イベントの運営費などは、十四日に開いた開催記念パーティーで賄った。

同団体のメンバーで、企画に携わった青森市の国際交流員、クリスティー・バーさん(三三)と、弘前南高校のALIT、ワイオミア・マワーズさん(三〇)の二人は「『みんな一緒』

という意味もある『ナマステ』が作品のテーマ。これまでの活動の中で、初めて日本人も参加し、すてきなイベントになった」と語った。

作品は、イベント終了後にも同団体のホームページで紹介、販売する。

(古木明日香)

16/Nov/2008 東奥日報